

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775502012		
法人名	社会福祉法人 朋寿会		
事業所名	あすか八尾グループホーム		
所在地	大阪府八尾市南太子堂4-1-14 サンライズ東宝2階		
自己評価作成日	令和3年1月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JikyosyoCd=2775502012-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JikyosyoCd=2775502012-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年2月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症の進行予防、心身機能の維持、その人らしさの尊重の観点から、できる限りご自身の足で歩いていただくことを大切にしています。ご自身の身の回りのことはもちろん日常の掃除や洗濯等できる限り入居者様と職員とで協力し合い、その人らしい快適な共同生活を送って頂けるよう支援しています。また本年度は新型コロナにより新しい生活様式へと変化し、感染対策をハード面・ソフト面で十分に行いながら、あすか八尾グループホームが入居者様・職員双方にとって居心地の良い場所であり続けるために工夫しながら、皆で互いに協力し合っているように努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念や基本方針、行動理念、行動指針等法人全体として目指す方向性が示されており、職員は課題が生じた時等は会議や日々の中で理念や指針に立ち戻り、笑顔や感謝すること等を心がけながら一人ひとりの思いや意向に沿った暮らしとなるよう支援しています。散歩や買い物等の外出行事を自粛し、他ホームとの交流や地域行事等も全てが中止となり制限が多い中、利用者と共に洗濯や掃除等の家事を行ったり、ホーム内で取り組める体操や夏祭り等のイベントを工夫し、利用者の身体機能を維持しながら楽しみや気分転換を図れるよう支援しています。また長く勤務する職員も多く利用者や家族と馴染みの関係を築き、面会ができない家族の希望を受けてオンラインによる面会を取り入れたり、新たに除菌機能付きの加湿器を導入し感染予防にも力を入れ取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「繋ぐすべての人の夢としあわせを実現します」の実現に向けて、ホーム内に掲示し、基本方針・行動方針の浸透を図っている。また日々の業務の中でも理念を意識して支援にあたるようにしています。	法人理念や基本方針、行動理念、行動指針をホームの理念とし、法人理念と基本方針はパンフレットに記載され外部へも発信しています。理念や方針、指針等は職員が意識できるようフロアに掲示し、入職時や日々の中でも理念に込められた思いを伝えていきます。課題が生じた時等は理念や指針に立ち戻り確認しながら実践に繋げていきます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナにより感染防止対策から施設外での活動が制限され、ほぼ出来なかった。認知症地域推進委員とのつながりから認知症啓発に使用するティッシュの作製をお手伝いして、地域の活動団体から感謝の言葉をいただきました	前年度までは餅つき大会に同じマンション住民の参加を得たり、他施設と互いの行事への参加や手品や踊りなどのボランティアの来訪もあり交流の機会を持っていました。コロナ禍での今年度はすべての行事が中止となっていますがコロナ収束後は地域交流の再開を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は新型コロナ感染対策を優先したため、実施できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は新型コロナ感染対策のため、会議が実施できず、近況の報告を紙媒体で関係者に伝え、地域の情報交換などは郵送でやり取りを行っています。	運営推進会議の開催にあたっては市からの通達もあり、昨年5月からは会議開催の延期及び中止となっています。現在はホームの状況などを文書にまとめ民生委員や校区高齢あんしんセンター職員などの運営推進会議メンバーに郵送し報告しています。今後は市の方針や感染状況の推移を見ながら会議の再開を予定しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナにより来庁が難しくなったため、メールで市から送られてくる注意喚起や新型コロナの感染対策等の介護メルマガを活用しています。電話により不明点の確認や相談を行い、現状を伝えていきます。	現在は市役所へ出向く事は控えており、コロナの感染対策など分からない事は電話で問い合わせています。市からのメールで感染症や介護保険に関する情報を得たり、市の施設長会には法人理事長が出席し法人を通して情報が届いています。また市からオンライン研修の案内が届き内容により職員が受講しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束防止会議を開催し、日々の支援の中で不適切なケアが行われていないか、検討しています。検討内容を全職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また本年度は新型コロナの影響でオンラインによる研修も活用しています。	3ヶ月に1度身体拘束適正化委員会を行い、内容については会議録の閲覧や個別に周知し、毎月の会議の中で不適切ケアについて検討したり、オンラインによる外部研修は全職員に案内しています。安全に付き添う為に家族に説明の上センサーマットを使用していますが毎月の会議で必要性を検討しています。日中は施錠を行わず外に行く方には職員が付き添っており、制止などが見られた場合は主任が注意しています。	

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本年度は新型コロナの影響でオンラインによる研修を活用しています。また毎月、入居者様一人一人のケアカンファレンスを行い、虐待につながるような不適切なケアが行われていないか検討しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は新型コロナの影響でオンラインによる研修を活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書を読み合わせて、書面と口頭を用いて十分な説明を行っている。また変更時には書面等で家族へ知らせています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の要望は日々の支援の中で聞き取り、その都度対応しています。本年度は新型コロナの影響で面会が制限されたため、家族等の意見や要望は電話でのやり取りの中から聞き出し、ケアに反映させています。	日々関わる中で利用者の希望を聞いており、希望を受けて毎週日曜日に手作りおやつの日を設ける等反映させています。家族の意見や要望は月に1度家族に電話で連絡を取り取る機会等に聞いています。コロナ禍により現在は面会を中止しており、家族からは面会に関する希望が出され、オンラインによる面会を取り入れています。また個別に出された要望はその都度検討し対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回開催し、意見や提案を聞く機会を設けており、業務の改善や利用者様のケアの質の向上につなげている。また随時相談できる雰囲気作りにも努めています。	職員の意見は毎月の会議の中等で聴き、不参加の職員には事前に口頭や文書で意見をもらい、日々の中では主任が職員に声をかけ話しやすい雰囲気を作っており、職員は意見を伝えていきます。ケアに関する意見も多くケアの統一や利用者の状況に合わせて業務の変更などを話し合っています。処遇に関する意見等は法人に挙げ検討されています。年に1度実施している個別面談も意見を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回職員の自己評価・個人面談を行い、人事考課を実施している。評価をもとに昇給等に反映させている。資格手当、介護従事者手当の給付等、向上心を持てるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は新型コロナの影響で内部研修の開催が難しく、法人でインターネットを活用した研修を行う会社と契約し、オンラインによる研修を活用しています。外部研修もオンラインのものに参加しています。		

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市の介護事業者連絡会に入会しており、そのグループホーム分科会などを通じて横の繋がりを作り、勉強会等にも参加しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネが自宅に出向き、利用者様と家族に面談を行い、これまでの生活を聞き取り、ホーム内でそれに近い状況が作れるように努めています。また情報共有ノートで関わり方を記録し、本人の安心を確保できるようにしています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずはケアマネが窓口となり、様々な不安や悩み、希望を引き出せるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、まずはその状況を素早く把握し、必要な支援を見極めた上で対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴や趣味、残存能力を把握し、日常生活(調理、買い物、掃除、レクリエーション等)を共に過ごす中からお互いが協力し、日々の生活過ごしていく関係作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの感染防止対策により、面会の制限を行わざるを得なかったため、直接会えない状況であったが、電話やテレビ電話を活用して状況を共有できるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響で地域に出向くことが出来なかったため、地域の昔の風景写真が載っている本などを見てもらい、馴染みの方などとは電話で話をしてもらうなどの対応をしています。	コロナ禍以前は馴染みの方の面会や地元の神社の祭りに行ったり、家族と自宅や墓参りに行く方がいましたが面会を含めてすべて中止となっています。現在は電話の取次ぎやオンライン面会、自分で電話を持ち自由に連絡を取り合う方もいます。また年賀状が届いた時は本人に渡しその方の話などを職員としています。コロナ収束後は取り組みを再開したいと考えています。	

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の状態(性格や日内変動等)を把握し、利用者様同士がホームの思い思いの場所でお互いにコミュニケーションを図れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	理由があつて退所される場合であっても、必ず「困ったときは連絡下さい。いつでも相談にのらせて頂きます」と伝えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に自宅や病院等で面談をし、本人、家族、関係者等から生活歴や身体状況、意向などを聞き取り、書面にまとめ職員間で情報共有しています。入居後は日々の支援の中から思いを聞き取り、経過記録に記入し、職員間で共有し、毎月のケアカンファレンスで本人本位のケアを検討しています。	入居に向けて自宅や病院などを訪問し、本人や家族から生活歴や意向などを聞いたり、担当のケアマネジャーの同席を得る事もあり情報を得ています。入居後は日々の中で利用者から直接聴いた言葉や思い、職員が気付いた事などを詳細に経過記録に残しカンファレンスで検討しています。思いの把握が困難な場合は表情やしぐさ等から汲み取ったり、家族に確認をする事もあり把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取り以外に家族や友人また、以前利用していた施設職員や病院などから話を聞くことで、これまでの暮らしや馴染み、支え等を把握し、これからの生活に繋げていけるよう努力しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議等で現状の状態の確認を職員全体で行い、一人一人の状態や状況を常に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをもとに作成した介護計画は3ヶ月で見直し、以降は1年毎に見直しを基本としています。変化があれば随時見直しています。モニタリングは毎月のケアカンファレンスで職員の意見をもとに行い、サービス担当者会議で家族、医師など関係者の意見も反映させ、本人の現状に即した計画に見直しています。	介護計画作成時はアセスメントを行い、日々の中で聴いた利用者の思いや電話などで事前に確認した家族の意向を基にサービス担当者会議を開いて検討しています。毎月のカンファレンスの中で全利用者の状況を確認してモニタリングを行い、変化の無い場合は1年毎に介護計画を見直しています。必要に応じて往診時の医師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯で経過観察記録を記入し、情報の共有化を図っています。その情報をもとにケアカンファレンスで検討し、介護計画の見直しに活かしています。		

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの想いや要望にできるだけ応えられるように職員で話し合い実践しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で対面による地域資源の活用が難しいため、新たな地域資源の活用方法を模索しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までのかかりつけ医を継続するか、協力医に変更するか選択してもらっています。職員や家族の対応でかかりつけ医の受診や往診を継続している方もいます。協力医による眼科、歯科の往診もあります。専門医への受診が必要な場合は家族と協力して対応しています。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を伝え、継続して往診を受けている方もいます。協力医は2週間に1度往診を受け24時間連絡を取る事ができ体調の変化時等は指示を得たり、往診を受ける事もあります。専門医を受診の際は家族と相談しながら職員や家族が対応し、家族が付き添う場合は口頭や状況により文書を作成して渡し、報告を受けています。また訪問歯科や眼科の往診の他、個別に接骨院に来てもらっている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在配置看護師はいないが、法人内の訪問看護ステーションへ相談が出来る体制を取り、健康管理に努めています。また協力医には24時間連絡できる体制を取っており、適切に医療が受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人・家族の意思確認のもと、早期退院に向けて医師・看護師・MSWと情報共有に努めている。また退院後のケアについての連携も図れるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針を基に重度化した際の事業所対応について家族に説明しています。実際に重度化した際には医師と共に職員からも説明をし、本人家族の意向を踏まえ、出来る範囲で対応しています。状況によっては他の施設等を紹介しています。看取りは導入出来ておりませんが、体制を整えていっています。	入居時に現在は職員体制等の課題もあり看取り支援を行っていない事を説明しています。医療処置や食事が摂れなくなる等ホームでの暮らしが難しくなった場合は医師や家族、職員の三者で今後について話し合い、家族と共に他の施設等の転居先を探しながらできる限りホームで長く過ごせるよう支援をしています。法人で看取り研修が行われる際は参加しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを見直し、職員全体に周知できるように研修会を開催しています。またヒヤリ・事故報告の中で再発防止を検討し情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しています。昼間の火災、夜間の水害想定で行っています。またコロナ禍での避難を想定した必要物品の確保も進めています。	年に2回昼夜を想定した訓練を行い日中は火災を想定し通報や避難誘導等を行い、夜間を想定した水害訓練では上階にある法人事務所への避難等を行っています。予定していた上階マンション住民との災害時の協定はコロナで中断していますが収束後に取り組みを予定しています。本部が食料を備蓄し懐中電灯や水の容器等も本部と連携し備えています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本年度は新型コロナの影響によりオンラインによる研修を活用しています。入居者様と関係性を構築しながら、入居者様が分かりやすい言葉かけを心掛けています。入浴や排泄支援は同性介助で行い、羞恥心にも配慮しています。	接遇マナーや個人情報等に関するオンラインによる研修を実施しています。利用者は目上の方との意識を持ちながら分かりやすさや親しみやすい言葉遣いと共に場面に合わせたり、表情等の非言語のコミュニケーションについても職員に伝え笑顔での対応を心掛けています。不適切な対応が見られた場合はその都度指導し、希望に関わらずできる限り同性介助に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には自己選択、自己決定だが、自己で判断や選択が困難な場合には二択、三択にするなど自己決定しやすいように工夫したり、表情や行動からのサインを見逃さないように努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GHの業務マニュアルは存在するが、基本的には「臨機応変」でその日その日の入居者様の状態や状況に合わせて入居者様優先での対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様一人ひとりの意向や好みを知り、季節に応じた服装やお洒落への支援(買い物を含)、また衣替え等家族にもご協力いただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや季節の物を取り入れた献立を基に細やかな希望や食べたいものも組み込めるようにしています。また日々見えるところで準備・調理できるようにし、行事の際やおやつの機会に職員と一緒に調理に参加してもらっています。片付けを自身の役割と感じ、生活に張りが出ている入居者様もおられます。	朝食はご飯やパンの希望に沿ってホームで作り、昼食と夕食は法人の厨房から届きホームで盛り付けています。毎月一日は赤飯や年間行事を反映し、故郷の郷土料理等も献立に取り入れられています。1~2ヶ月に1度の夏祭り等の行事にはアルコールの提供やおでんや焼き鳥、フランクフルト等を利用者と一緒に調理し、行事食は職員も共に食事を摂ったり、毎週日曜日はホットケーキや和菓子等のおやつ作りも楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や分量に関しては管理栄養士に管理してもらっているが、個々の状態や状況に応じて食事量の調整を行っています。また、食事量が少なく栄養状態が保てない場合に関しては代替食品の使用などを検討します。		

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ毎食後には入居者様全員個々の状態に合わせた口腔ケア支援を行い、誤嚥性肺炎の予防を目的に口腔清潔に努めています。また、週に1回歯科往診により口腔内の確認を行い、清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできる限りトイレでの排泄を基本としています。排泄チェック表で個人ごとにパターンを把握して、時間や様子を見ながらひとりひとりに応じた声かけ、誘導をしています。出来る限りトイレでの排泄を支援し、使用排泄用品の種類や使用方法も随時検討しています。	排泄表を基に排泄のリズムやサインを見ながら日中はトイレでの排泄を大切に支援しています。夜間はポータブルトイレの使用や睡眠を優先する方もおり、個々に合わせた支援については日々の中やカンファレンスで話し合い連絡ノート等で共有しています。早目の声掛けや誘導を行う事で失敗に繋がらないよう支援し、おむつから紙パンツの使用に変更になった方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す作用のある食品や下剤等双方で対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回日中の夕方までの時間帯に入ってもらい、希望があれば回数を増やすことも対応しています。好みの石鹸やシャンプーを使用したり、入浴剤等を使用したり、会話を楽しみながらゆっくりと入浴を楽しんで頂けるように支援しています。	入浴は週に2回、日中の時間帯に一人ずつ湯を入れ替え、季節の柚子や菖蒲湯、入浴剤を使用したり、好みのシャンプー等も使用し、個々のペースでゆっくり入れるよう支援し、重度の方もリフト浴の設備があり全員湯船に浸かってもらっています。強い拒否の方はなく体調を見ながら声掛けを工夫し、時には次の日にする事も無理の無いよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない場合等は落ち着くまで一緒に過ごしたり、暖かいお茶やお菓子で空腹を満たしたり、こまめな巡回で室温調整を行ったりしている。また、日中に生活リズムが整えられるよう(散歩、レク等)に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の作用が確認できるように、全員の処方箋を保管・管理している。また、新しく追加された場合や変更があった場合は口頭や文章で連絡している。適切な服薬のために主治医への情報提供は密に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や生活習慣、性格等を把握し、無理のない範囲で役割を行うことによって自信や生き甲斐に繋げていけるような支援を行っている。(掃除、洗濯、調理等)		

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は新型コロナの感染防止対策のため、外出の支援は実施していない。ペランダや玄関先などを活用して外気浴は行っています。	以前は散歩や買い物に行ったり、初詣や桜などの季節の花見、地域のふれあい祭りなどの他、市内のグループホームとの交流などを行っていましたが今年度は全てが中止となっています。現状では玄関先で花や観葉植物などの水やりを利用者を行うなど外気浴や気分転換を図りながら過ごしており、コロナ収束後には散歩や外出行事などの再開を予定しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支障がない方は家族からお小遣いを預かり、施設で保管して、買い物などへ行った際は自分で支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナの影響で面会制限を行ったため、電話により家族や友人と話す機会を確保しています。LINEを活用したテレビ電話も用意しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花を飾ったり、正月やひな人形等の季節の飾りつけを行っています。また施設内に飾り棚を設置し、入居者様が職員と一緒に作成したハーバリウムやコースターなどの作品の展示し、見て楽しんでもらっています。テーブルや椅子などは入居者様同士の相性を考慮しながら配置し、ソファで一人または気の合う方とゆっくりできるスペースも作っています。新型コロナのこともあり、空気清浄機、加湿器を新たに追加して、安心して過ごせる空間作りを務めています。	共用空間はクリスマスや正月等の行事毎の飾り付けや季節の花を活けたり、利用者と一緒に作った作品を飾っています。ソファを数カ所に置き個々に好みの場所を選び寛いだり、テーブル席は仲の良い人が一緒に過ごせるよう配慮をしています。また除菌機能のある加湿清浄機を新たに購入し、2時間置きに換気を行い、利用者の声を効きながら過ごしやすいよう室温を調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	有の居間スペース(和室①洋間①)が2カ所ある。 ソファの配置など工夫して気の合った方との時間が取れたり、一人で過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅に出向き馴染みのものを持参いただけるように依頼し、使い慣れた家具や洋服などを出来る限り持参して頂いています。自宅に居た雰囲気に近い工夫をすることで、居心地よいその人らしい居室で生活していただけるように支援しています。	入居時に自宅を訪問した際は居室作りの参考にし、筆筒等の馴染みの家具の位置はできる限り再現できるよう支援しています。入居後に家族に依頼し楽しんでいたラジカセ等を届けてもらったり、写経の道具や位牌や遺影を持参し朝晩手を合わせる方もおり、自宅での生活習慣を継続しながら安心して過ごせるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの設置や福祉用具の活用 バリアフリーを取り入れ また、事故等が起こらないように環境整備にも常に気を付けている。初めから出来ない決めつけず、「どうすればできるか?」「どうすればできるようになるか?」を念頭に置き時に一緒に寄り添い考えながら支援している。		